

国際線が就航する中部国際空港（以下、「セントレア」）は、健全に機能するため多くの機関に支えられています。それらの業務の内容や実態を分かりやすく紹介することで、セントレアについての理解を深めていただきたいと、セントレア空港島に所在する各機関を訪問してインタビューした内容を中心に紹介しています。

第10回は、第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地長の富田英利氏にお話を伺いました。

（※文中の図表写真はすべて第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地提供）

公益財団法人中部圏社会経済研究所企画調査部部长 田辺 義夫

第10回 第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地

名 称：第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地

所在地：〒479-0881 愛知県常滑市セントレア1丁目2番地

沿革

1968年10月	三重県小俣町(現伊勢市)に第四管区海上保安本部伊勢航空基地発足
2004年4月	愛知県常滑市に名古屋海上保安部常滑海上保安署発足
2005年1月	常滑海上保安署の事務所が中部国際空港島内へ移転
2008年10月	伊勢航空基地と常滑保安署が統合 中部空港海上保安航空基地発足 (ヘリコプター2機、20m型巡視艇1隻)
2013年1月	20m型巡視艇が30m型巡視艇へ代替、潜水士が配置される
2014年2月	ヘリコプターがアグスタ式AW139型(愛称「かみたか」)2機に代替
2018年10月	30m型巡視艇が新造船「いせゆき」へ代替

Q 海上保安庁の任務と体制について教えてください

海上保安庁は1948年5月1日、「海上の安全及び治安の確保を図ること」を任務とし、海の安全を確保するための機関として運輸省(現・国土交通省)の外局として、設置されました。この任務を果たすため、広大な「海」を舞台に、国内の関係機関のみならず、国外の海上保安機関等とも連携・協力体制の強化を図りつつ、治安の確保、海難救助、海洋環境の保全、自然災害への対応、海洋調査、海洋情報の収集・管理・提供、船舶交通の安全の確保等、多種多様な業務を行っています。

体制としては、東京霞が関の本庁の下、全国に管区海上保安本部、海上保安部等を配置し、一元

的な組織運用を行っています。教育機関としては、広島県呉市に海上保安大学校、京都府舞鶴市に海上保安学校、福岡県北九州市には門司分校、宮城県岩沼市には宮城分校が設置されています。

Q 第四管区海上保安本部と中部空港海上保安航空基地の位置づけについて教えてください

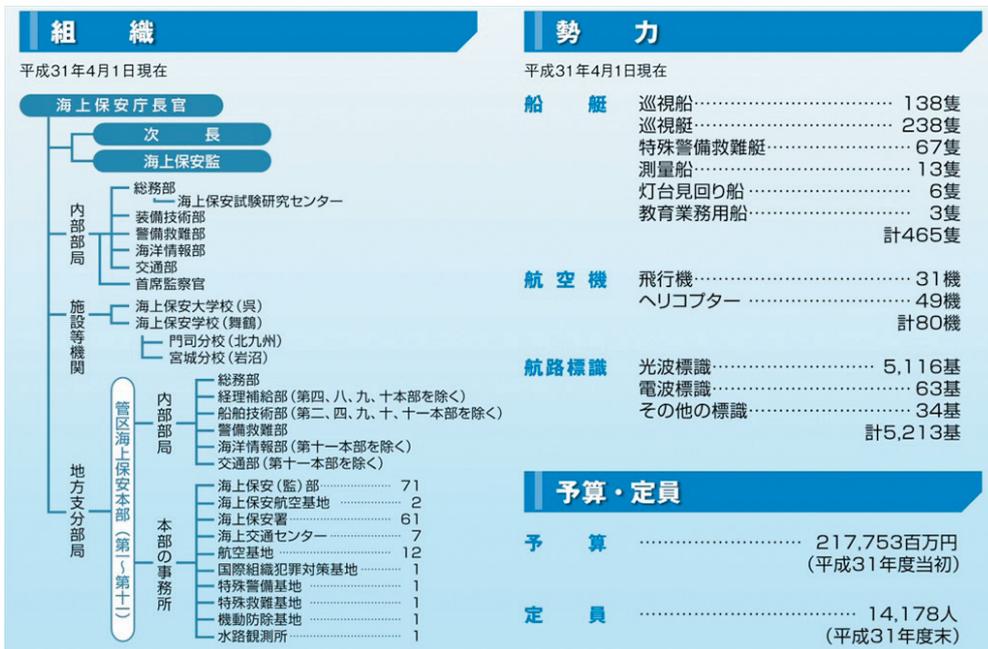
海上保安庁は、全国を11の管区本部に分けて業務を進めています。

第四管区海上保安本部は、愛知県、三重県および岐阜県を管轄区域とし、その沿岸部から太平洋上約1,300kmの沖合に及ぶ海域を担当水域としており、名古屋市港区に設置されています。管内には、海上保安部が4か所、海上保安署が2か所、

管区海上保安本部担任水域概略図



図表 1 管区海上保安本部担任水域概略図



図表 2 海上保安庁の組織・体制

分室が1か所、海上交通センターが2か所、そして中部空港海上保安航空基地が設置されています。これらの部署等には巡視船艇等25隻、ヘリコプター

4機が配置されており、管内の業務にあたっています。

中部空港海上保安航空基地は、四管区の出先の



図表3 第四管区海上保安本部の事務所位置図

現場部署のひとつで、巡視艇1隻とヘリコプター2機が配置されています。

Q 中部空港海上保安航空基地が設置された経緯について教えてください

第四管区海上保安本部には、かつて三重県の明野飛行場に隣接した場所に伊勢航空基地がありました。1968年10月の発足後、ヘリコプターによる

救助活動や監視活動等の海上保安業務を遂行していました。

2004年4月、まだセントレアの空港島が完全に出て上がっていない時期ですが、知多半島の常滑市に名古屋海上保安部の所管する保安署として常滑海上保安署が発足し、この地域の海上保安業務に従事することになりました。

その後、常滑海上保安署は2005年1月に事務所



図表4 中部空港海上保安航空基地

を空港島内に移転しました。中部国際空港は24時間運用の空港ということもあり、ヘリコプターによる業務と空港周辺海域の巡視艇による業務を一体的に実施する現場組織が求められ、2008年10月に伊勢航空基地と常滑海上保安署を統合して中部空港海上保安航空基地として、空港島の中に発足しました。

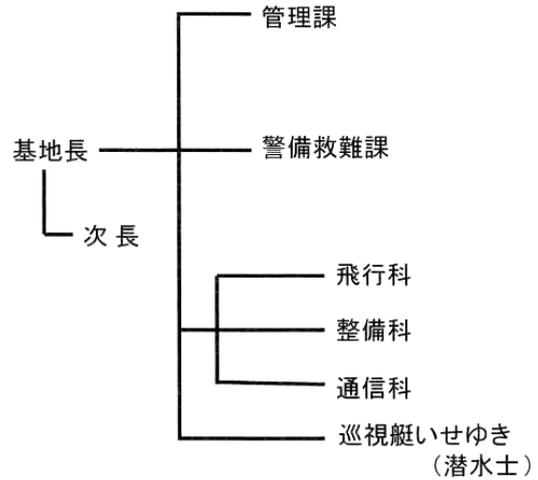
Q 中部空港海上保安航空基地の業務について教えてください

当基地は、航空基地の機能と海上保安部の機能を持っていますので、業務遂行に際しては両方の業務を実施しています。

巡視艇が中心となる海上保安部としての機能から説明しますと、空港島周辺海域と伊勢湾北部の海域において、海難救助、治安の確保、犯罪の取締り、環境保全の活動、マリノレジャーに係る安全指導などを主な任務として取り組んでいます。当基地に所属します巡視艇「いせゆき」は、2018年10月に就役したばかりで、各種装備も機能が向上しており、さまざまな業務での活躍が期待されます。また、「いせゆき」には潜水士が乗船していますので、潜水を伴うような海難事案にも出動することが求められますので、そういったことに備えての訓練も日々行っています。

一方、ヘリコプターが中心となる航空基地としての機能につきましては、第四管区管内が担務するエリアになりますので、主にこのエリアにおける航空機を使った救難活動をメインに、通航船舶の監視や一部取締りにも従事しています。ヘリコプターの機種は、アグスタ式AW139型（愛称かみたか）です。航空機による救難活動では、必要に応じ潜水士が同乗して出動しますので、日ごろの訓練では、潜水士の出動も想定した訓練を行っています。

また、近年、水害などの大規模な自然災害の発生がみられますが、被害が海上に及ばない場合でも、巡視船艇、航空機、特殊救難隊、機動救難士および潜水士等の機動力を活用して、人命救助、被害状況の調査等を行っており、被災住民の避難



図表5 第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地 組織図



図表6 30m型巡視艇「いせゆき」



図表7 アグスタ式AW139型ヘリコプター「かみたか」

支援のほか、被災地域のニーズを踏まえた給水・給電支援、入浴提供および医療関係者や支援物資の搬送等を実施しています。当基地対応では2015年9月、豪雨により河川の堤防が決壊し、民家などに住民が孤立した関東・東北豪雨災害に対応し、

5名の方々に救助しています。

Q 海難救助が主要な業務の1つとのことですが、最近の救助事案について教えてください

最近の海難救助事例で2例ほど紹介させていただきます。

1つ目は、2019年4月19日ですが、午前5時30分頃三重県熊野市の沖合いで磯釣りの釣り場に向かっていた人が高波に飲み込まれ海中転落しました。同行していた人が携帯電話の通話エリアまで移動して午前6時半頃118番通報し、これを受け当基地のヘリコプターおよび尾鷲海上保安部の巡視艇が出動しました。事故者は救命胴衣を着用していたため海上で浮いて救助を待っていたところ、当基地のヘリコプターが事故者を発見、巡視艇を誘導し地元水難救済会所属の船舶と連携して救助しました。

救命胴衣の着用が命を救った事例だと思います。釣りに行かれる方や小型船舶に乗船される方は救命胴衣を正しく着用するように、また同時に気象海象の予報を確認し無理な釣行は控えるようお願いいたします。



図表8 三重県熊野市の沖合いの海難救助

2つ目は、2019年5月4日ですが、三重県志摩市志摩町の麦埼灯台の沖合いで、釣りをしていたプレジャーボートが帰港しようとしていたところ、燃料の欠乏のため船外機が起動せず航行不能に陥り118番通報し救助を求めてきました。これを受け、当基地のヘリコプターと鳥羽海上保安部浜島



図表9 三重県志摩市志摩町の麦埼灯台の沖合いで海難救助

分室の巡視艇が出動しました。ヘリコプターと巡視艇が現場到着したところ、当該船舶は巡視艇が接近できない水深の浅い海域を陸岸向けに流されている危険な状態であったことから、乗船者4名をヘリコプターへつり上げ救助しました。なお、その後漂流していたプレジャーボートは防波堤の消波ブロックに座礁しました。幸いなことにけが人もなく全員救助できましたが、燃料の欠乏は出港する前にきちんと点検をしておけば防げた事案で、プレジャーボートを運航される方は発航前の点検は確実に実施するようにお願いします。

Q 水難救助について他機関とも連携されているのでしょうか

日頃から警察や消防といった関係機関と連携を深めています。最近では、2019年5月15日に空港島の対岸にあるりんくうビーチとその前面海域において、常滑市消防本部、常滑警察署、愛知県防災航空隊および当基地が参加して、水上オートバイとプレジャーボートが衝突し乗船者が海上に投



図表10 3機関合同の水難救助訓練

げ出されたとの想定で合同の水難救助訓練を実施しました。本格的なマリンスポーツシーズンを控えた時期に参加関係機関の協力体制を確認するとともに連携強化を図りました。

Q マリンスポーツが盛んなエリアもあるようですが、安全に楽しむためにはどういうことに注意すればよいのか教えてください

当基地の周辺には、りんくうビーチなどいくつかの海水浴場が存在します。また、プレジャーボートのマリーナもあり、マリンスポーツの活動が盛んだと思います。特に夏季は多くの方がマリンスポーツを楽しまれると思いますが、それぞれのアクティビティに応じた注意事項を確認して事故のないように楽しんでいただきたいと思います。近年は、SUP（スタンドアップパドルボード）やカヌーなどが盛んになってきており、海上活動が多様化してきています。これらのアクティビティは、その手軽さから海に関する知識が不足したまま海に出て行き、事故に遭うケースも見受けられます。

海上保安庁では、アクティビティごとに安全に安心して楽しむための注意事項を抽出し、ウォーターセーフティガイドとしてインターネットで公表していますので参考にいただければと思います。



https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html



図表11 安全広報の事例

Q 地元の子供たちと海に関する取り組みもなさっているそうですね

海洋環境の保全についての思想普及の一環として、地元の小学校にご協力いただき、毎年海浜清掃を行っています。常滑市立鬼崎北小学校は、学校西側に広がる鬼崎海岸において20年以上にわたり海岸の清掃を行い、地域の海洋環境保全に努められています。本年も6月1日に当基地職員も参加して行いました。

また、海上保安庁では、海洋環境保全啓発活動の一環として、「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」を開催しています。中部基地管内の応募数は毎年千件を超え、第四管区管内でもっとも多く応募をいただいています。いただいた作品は、優秀作品の表彰や、応募作品の展示も行っています。



図表12 海浜清掃活動の様子



図表13 地元の子供たちと海に関する取り組みの様子



図表14 海洋環境保全啓発活動の一環（図画コンクール）

Q 2018年9月の台風21号では、走錨そうびょうしたタンカーが関西国際空港連絡橋に衝突する事故が発生しましたが、同じ海上空港である中部国際空港での事故防止対策はいかがですか

海上保安庁では、2018年10月、関西国際空港連絡橋への走錨そうびょうした船舶の衝突事故を受け、学識者および海事関係者などによる有識者検討会において再発防止策を検討し、2019年1月から関西国際空港周辺海域における安全対策を講じました。また、2019年3月に取りまとめられた有識者検討会

の最終報告書において、船舶交通の安全確保を目的としつつ重要施設の存続に甚大な影響を与えることのないよう優先的に対応策を検討すべき施設のある海域が選定され、中部国際空港周辺海域も含まれています。

第四管区海上保安本部では、中部国際空港への走錨そうびょう船舶の衝突事故防止として、2019年6月1日から海上交通センターによる船舶への情報提供の強化策を試行しているほか、学識経験者および地元海事関係者から構成される委員会を設置し、2019年7月22日から中部国際空港の周辺海域における錨泊自粛びょうはくの試行を開始するなどの対策に取り組んでいます。

Q ところで、海上保安官になるにはどうしたらよいのでしょうか

海上保安大学校または海上保安学校を卒業・修了する必要があります。

海上保安大学校は、広島県呉市にある将来の海上保安庁の幹部となる職員を養成するための教育機関であり、本科4年、専攻科6か月および国際業務課程3か月の計4年9か月間です。カリキュラムは学校教育法に基づく大学設置基準に準じており、卒業時には「学士（海上保安）」の学位が授与されます。全寮制で団体生活を通じて相互練磨とリーダーシップを体得していきます。専攻科



図表15 海上保安大学校の全容



図表16 海上保安学校の全容

在籍時に約3か月の練習船による遠洋航海実習を行います。実習生は世界一周の遠洋航海を通じて国際感覚の涵養や船舶運航に関する技能を修得します。卒業後は初級幹部として巡視船艇に乗船し、その後陸上勤務と海上勤務を交互に繰り返しながらキャリアアップしていきます。

海上保安学校は、京都府舞鶴市にある海上保安庁の各分野における専門の職員を養成する教育機関であり、学生は採用試験時に船舶運航システム、航空、情報システム、管制、海洋科学の5つの課程のうちいずれかを選択します。教育は、船舶運航システム、航空、海洋科学は1年間、情報システム、管制は2年間です。全員を対象に海上保安官として必要な知識を学ぶ共通科目に加え、各課程ごとの専門科目を学びます。全寮制で団体生活を通じて相互練磨し協調性を身に着けます。卒業後は、業務経験と選抜試験により海上保安大学校での研修を経て幹部へ登用される道も開かれています。

また、海上保安学校には門司分校もあり、船舶、航空機および無線通信等の有資格者から採用試験に合格し採用された者に対して、6か月間の初任者研修を行っています。

採用について、男女の差はありません。

海上保安大学校、海上保安学校、海上保安学校

門司分校は、入学金、授業料等は一切不要です。学生生活に必要な制服や寝具等は貸与されます。入学と同時に国家公務員としての身分を与えられるため、海上保安大学校、海上保安学校では、毎月約15万円（2019年度）の給与や期末手当、勤勉手当（いわゆるボーナス）が、海上保安学校門司分校では、入校までの職務経歴に応じた給与等が支給されます。

Q 受験資格などを教えてください

受験資格は、海上保安大学校の場合は高等学校等を卒業して2年以内、海上保安学校の場合は高等学校等を卒業して5年または6年以内です。海上保安学校門司分校の試験は有資格者の採用になりますが、当庁職員の在職状況により募集する職員の種類（船艇職員、船舶料理士、無線従事者、航空機職員）および各採用予定人数、試験日程が決定されます。受験資格、受付期間、試験日程などは年度ごとに発表されますので、当庁のホームページを確認していただければと思います。

また採用関係については、何か質問がある場合や職員の生の声が聞きたい場合は、当基地または第四管区海上保安本部まで連絡していただいてもかまいません。

もっと詳しく海上保安庁を知りたい方は、以下のホームページにも、海上保安庁の業務や海上保安大学校・海上保安学校等のイベントなどを紹介していますので、ぜひご覧ください。

海上保安庁ホームページ https://www.kaiho.mlit.go.jp/	海上保安大学校ホームページ https://www.jcga.ac.jp/
	海上保安学校ホームページ https://www.kaiho.mlit.go.jp/school/
	海上保安学校門司分校ホームページ https://www.kaiho.mlit.go.jp/school/moji/
	国家公務員総合職採用ホームページ https://www1.kaiho.mlit.go.jp/saiyo/
	海上保安レポート(WEB) https://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/hakkou/report/top.html

図表17 受験資格に関する海上保安庁ホームページアドレス

Q 採用に男女の差はないとのことですが、女性職員は増えているのでしょうか

当庁では、1979年から女性海上保安官の採用を開始しています。男性の職場というイメージが強いかもしれませんが、近年は積極的に女性職員の採用と登用の拡大を図っています。2019年4月1日現在では979人、全職員の6.9パーセントの女性職員が全国各地で活躍しています。

Q 中部基地にも女性職員はいらっしゃるのでしょうか

当基地には2名の職員が在籍しています。1名は次長で、ヘリコプターパイロットの経歴を持ち、パイロットとしての現場勤務のほかに本庁や管区本部での陸上勤務も経験し、私の補佐役としてこの基地の運営に携わっています。もう1名の職員は、現在育児休業中ですが、海上保安庁では職員1人1人が抱える事情に応じた仕事と家庭の両立支援制度の利用を推進しているところです。当基地でもそうですが、事案があれば即座に出動するように、海上保安庁の業務は24時間365日休むことができません。しかしながら、職員のワークライフバランスに配慮することも重要です。近年は、育児や介護を配偶者等のパートナーとともに分担しながら仕事と家庭を両立できる環境の整備に努めています。

Q 海上保安庁は、最近、情報発信にも力を入れているようですが

そうですね、以前から年に1度発行している「海上保安レポート」やホームページにより、国

民の皆さんに当庁の業務を理解していただくべく取り組んできたところですが、近年はTwitterを用いた情報の発信やYou Tube公式アカウントの開設にも取り組んでいます。今後も、様々な情報を発信していきますので、是非フォローやチャンネル登録をお願いします。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL:03-3591-6361

e-mail jcg-goiken@mlit.go.jp

ホームページ <https://www.kaiho.mlit.go.jp>

Twitter https://twitter.com/JCG_koho

You Tube <https://youtube.com/channel/UC3yxhEkCZKaDa-SdzaWECaQ>

海保 Twitter



海保 You Tube



図表18 海上保安庁の情報発信

Q 常滑の街の印象をお聞かせください

私は、2019年の4月に初めて常滑市にまいりましたが、空港が近く交通の便が良く、市街地の周りに緑が多く残っており、魚介類を中心に食べ物も美味しく、大変住みやすい街だと感じました。常滑は古くからの焼き物の街ですが、常滑駅の近くの「焼きもの散歩道」にはおしゃれなカフェや

焼きもののギャラリーも多く、のんびり散歩するには丁度いい感じです。また、セントレアにはさまざまな飲食店や土産物店が軒を連ねるターミナルビルに加え、昨年オープンしたボーイング787の初号機を展示している複合商業施設である「FLIGHT OF DREAMS」などがあります。休日は、いろいろなところを訪ねて楽しませてもらっています。

Q 最後に中部空港海上保安航空基地長のお立場で一言お願いします

私ども中部空港海上保安航空基地の任務は、中部国際空港周辺海域並びに愛知県および三重県の沿岸海域における治安の確保、海難救助、海洋環境の保全、災害対策および海上交通の安全確保などです。こうした業務に所属する巡視艇、ヘリコプターを中心に従事することとなりますが、特に海難事案に対しては、迅速な出動と的確な現場対処を実施すべく、日々、訓練・研修に取り組んでいるところです。私たち基地職員一同、海上保安庁創設以来受け継がれる正義仁愛の精神を胸に、地域の皆様の安全安心をしっかりと守るべく取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



**海上保安庁 第四管区海上保安本部中部空港海上保安航空基地
中部空港海上保安航空基地長**

富田 英利（とみたひでとし）氏

1969年4月生 50歳 海上保安大学校卒
2006年4月 第五管区海上保安本部警備救難部警備課長補佐
2007年4月 大分海上保安部警備救難課長
2009年4月 第七管区海上保安本部交通部安全課長
2011年4月 海上保安庁交通部安全課航行指導室課長補佐
2013年10月 海上保安庁交通部安全課航行安全企画官
2014年4月 横浜海上保安部
2016年4月 門司海上保安部次長
2017年4月 第八管区海上保安本部警備救難部次長
2019年4月 中部空港海上保安航空基地長（現職）